

議長に聞く

新潟県見附市 南北に長い新潟県の真ん中に位置する。農業と繊維産業を基幹産業として発展してきた。平成の大合併では2003年、市民アンケートの結果を受け、合併しないで自立の道を歩むことを選択した。

——正副議長含め、女性議員が全体の4分の1を占めている。

私が初当選した21年前と比べると、議員構成が大きく様変わりした。女性の増加だけでなく、以前は農家出身の議員が多かったが、今は様々な職種の議員がいる。見附市は2003年11月に長岡地域の市町村合併に参加しないことを決め、自立の道を選択した。職業や性別に関わらず、自分たちで住みやすい町を築き上げようと、市政に関心を持つ市民が多い。

子育てや女性が働きやすい環境を整えるという点で、議会にももっと女性目線を取り入れていくべきだと考えている。繊維と農業で発展した見附市は、働く母親も多く、子育て施策のさらなる充実は今後欠かせない。議会では、学校給食や教育環境の整備など、母親目線の質問が女性議員からも出ており、活発な議論が交わされている。

——13年から、市内の各種団体と意見交換をする機会を設けている。

議会の活性化と、まちづくりの取り組みの一つとして毎年1~2回のペースで実施している。スポーツ団体や農業従事者、商店街関係者など、毎年様々な人と幅広く意見交換をしている。意見を元に今後取り組むべき重要課題や気付きをまとめ、議会の活動に生かすことが目的だ。

新潟県見附市議会議長 佐々木 志津子氏

ささき・しづこ 1953年新潟県燕市生まれ。65歳。72年三条東高等学校卒。NST新潟総合テレビのアナウンサーを経て、85年にフリーアナウンサーに。1998年見附市議会議員選挙に初当選。現在6期目。10年副議長、18年から現職。趣味は絵手紙、ガーデニングなど。



選挙権が18歳に引き下げられたことを受け、17年には見附市内の高校生と意見交換する機会を設けた。高校生15人に出席してもらい、議員も交えた4つのグループに分かれ話し合い

をした。意見交換のテーマは「若者たちが、住みたい、働きたいと思う見附市の将来像について」。見附市のいいところ、残念なところなど、高校生から出てきた意見は議員目線では気付かなかった視点も多く、我々にとっても大きな学びとなった。

——2年の議長任期の間で達成したいことは。

見附市議会では現在、議会基本条例を持っていない。基本条例は、議会本来の役割を改めて認識することや、議会の機能を問い直し高めることにつながる。行政視察を実施するなど、他の自治体の基本条例について勉強する機会も設けており、議会基本条例の青写真を描きたいと考えている。

——見附市が現在抱える課題は。

県内の多くの自治体と同じく、少子高齢化や人口減少問題が大きな課題だ。個人的には、子供の貧困も深刻な問題と感じている。市民目線を持つ心がけるだけでなく、市民と積極的に意見を交わすことで、より市民に寄り添った行政にしていきたい。

(聞き手は新潟支局 斉藤 美保)

高校生と意見交換で新たな気付き 女性目線を取り入れる